

地方都市行政調査 報告書

委員会	区民委員会		
調査年月日	平成29年10月25日(水)	調査場所	山形県 米沢市
委員	委員長 小泉 ひろし 副委員長 藤沼 壮次 副委員長 鈴木 けんいち 委員 大竹 さよこ 委員 ただ 太郎 委員 長澤 興祐		

調査項目	ナセBA(市民ギャラリー・米沢市民図書館)について
調査の目的	区民・地域のちから推進行政に関する先進事例を調査研究することによって、区民サービスの向上に資するため
調査内容	<p>以下の内容について施設の見学を行った。</p> <p>【施設概要】</p> <p>本複合施設は、市立米沢図書館とよねざわ市民ギャラリーからなり、平成28年7月に開館した。「ナセBA」という愛称は、上杉鷹山の「なせばなる・・・」と、BはBOOK、AはARTの頭文字を合わせたもので、公募によって選ばれた。</p> <p style="text-align: center;">市民ギャラリー</p> <p>1階にある展示室は、柱や壁が少なく非常に開放的な空間であった。天井高3.3mの可動式の間仕切り7つ、天井高4.5mのものを2つ使用することで、企画内容に応じて柔軟に展示場所などを変更して展示会を行うことができ、「小中学生造形作品展」や「市民芸術祭」など多くの住民が活躍できる場となっている。</p> <p>各通路の壁の上部には絵画などを飾れるよう天井にレールが敷設されており、オープンギャラリーとして有効活用されている。また、ワークショップが行われる体験学習室などを含めるとさらに大規模な展示空間を創設できる。</p> <p style="text-align: center;">米沢市民図書館</p> <p>開架は2階にあるが、3階から5階にかけて吹き抜けの壁面書庫になっており、見上げると約6万冊の図書に360度ぐると囲まれ、まるで「本の森」にいるかのような雰囲気味わえる。</p> <p>郷土資料専用の閲覧室には、本市に縁のある直江兼続が収集した貴重な資料など、江戸時代以前に出版された書籍が多数ある。閲覧室の隣には郷土資料の専門カウンターを設置。図書館に上がる途中にある踊り場には「先人顕彰コーナー」を設け、大きなケースに歴史資料や美術作品の展示を行い、問題解決だけでなく、来館者の興味の環が絶えず広がっていくように工夫が施されている。</p> <p>子どもコーナーの書架には約1万5千冊の絵本がずらりと並んでいる。絵本や紙芝居の読み聞かせを実施している「おはなしの部屋」には、本市出身の漫画家が描き下ろした絵を飾り、部屋にいただけでも楽しい雰囲気となる。また、靴を脱いで部屋に入ること、リラックした時間が過ごせるなど細かい気配りがみられた。</p> <p>また、新事業である小学校巡回文庫は、子どもの好きなテーマごとに25冊1組で約3,000冊の本を購入し、学校の規模に応じて3ヶ月ごとに巡回させている。実施から1年が経過し、実際に図書室に足を運ぶ子どもが増えるといった効果も出ており、非常に好評である。</p> <p>「暮らしの中に図書館を」という合言葉のとおり、興味の輪を広げるだけでなく、子ども達の夢を大きく膨らませる施設になっていくと期待されるものであった。</p>

地方都市行政調査 報告書

委員会	区民委員会		
調査年月日	平成29年10月26日(木)	調査場所	山形県 山形市
委員	委員長 小泉 ひろし	副委員長 藤沼 壮次	副委員長 鈴木 けんいち
	委員 大竹 さよこ	委員 ただ 太郎	委員 長 澤 興 祐

調査項目	リア塾について
調査の目的	区民・地域のちから推進行政に関する先進事例を調査研究することによって、区民サービスの向上に資するため
調査内容	<p>「社会人となり毎日が自宅と職場の往復・・・、友達と休みが合わず休日も家から出ない日が多い・・・」といった、若者が同年代と触れ合う機会が減少していることに加え、地域とのかかわりが希薄になっていること、若者向けの公民館事業が少ないことなどの課題を解決するため、本事業を開始した。</p> <p>本事業を通じ、若者が新しい「仲間」と出会い、「楽しみ」を発見し、「自信」に繋げ、コミュニケーション能力の向上、日常生活の興味や関心を高め、自ら進んで挑戦する力を磨くことを目的としている。</p> <p>若者を集める工夫として、「オトナの遠足」、「コミュカUP大作戦！」など若者を惹きつけるキャッチーなネーミングを使用。さらに、講座の内容も本市が主催してきた「硬いイメージ」を打破するため、「サッカー観戦」や「ハロウィンでの仮装大会」など若者が気軽に参加でき、楽しめるような企画となるよう工夫している。結果として、定員を超える応募があるため、枠を広げられるような講座内容を考えていくことが今後の課題となっている。</p> <p>講座内容は単に楽しむだけでなく、社会貢献活動を促す内容を盛り込み、寄附や地元団体などとの触れ合いを通じて、将来的な地域活動への参画を促すことで、生涯学習事業の講師を務める受講生を輩出するなどの効果があった。</p> <p>また、講座を受講した次年度以降は、実行委員会やサポートOBとして、それぞれの趣味や職業など得意な分野を活かして講座内容の企画や講師を担うことで、成功体験を生み出し、若者の「自信」へとつなげている。</p>
主な質疑	<p>(問) 地域貢献の視点を取り入れることが大切だと思うが、そこに着目した企画は。</p> <p>(答) 今年度、バルーンアートによるサンタクロースの作成・作品の寄贈という企画を実施している。寄贈する場所を考える話し合いも含めて、受講生主体でやり遂げ、達成感や自信につながるように支援していきたいと考えている。</p> <p>(問) 本事業は2年目以降も参加可能であるのか。</p> <p>(答) 「自信はもてたが、もう1年チャレンジしたい」といったリピーターの希望は多く、2年目以降も事業への参加は可能である。実行委員もリピーターとして参加している方がいる。</p>
委員長所見・区政に活かせる点等	当区でも少子高齢化や町会の加入率の問題など様々な課題があるが、若い方々が行政に関心を持ち、地域コミュニティに関わっていただくことが重要だと考える。イベントを行う場合にも、費用対効果など難しい課題があるが、本市の事例を参考にして、当区の取り組みに活かしていきたい。

地方都市行政調査 報告書

委員会	区民委員会		
調査年月日	平成29年10月27日(金)	調査場所	宮城県 仙台市
委員	委員長 小泉 ひろし	副委員長 藤沼 壮次	副委員長 鈴木 けんいち
	委員 大竹 さよこ	委員 ただ 太郎	委員 長澤 興祐

調査項目	協働の取り組みについて
調査の目的	区民・地域のちから推進行政に関する先進事例を調査研究することによって、区民サービスの向上に資するため
調査内容	<p>平成11年にスローガン「市民協働元年」を宣言し、NPO団体をつなげる拠点として、全国初の市民活動サポートセンターを開設した。平成27年には「仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例」を制定し、現在76事業を実施している。</p> <p>1. 市民協働事業提案制度</p> <p>複雑化する地域の課題解決に向けた事業を募集し、審査のうえ、本市の担当課と協働で実施。民間団体の自由な発想による提案を募集する「自由提案型」と本市が設定したテーマに基づく提案を募集する「テーマ設定型」があり、これまで21事業を採用。団体の専門的なノウハウを活かし、行政との相乗効果を生み出している。</p> <p>2. 地域力創造支援事業</p> <p>市民センター（公民館）ごとに企画をたて、町内会が学校などと協働し、コミュニティ形成といったテーマを扱い、地域課題の発掘と解決を図る。1事業30万円を上限とし、市民協働事業提案制度よりコンパクトに、それぞれの地域団体が連携し、平成29年度は28事業を実施。団体間交流や次世代リーダーの育成につながった。</p> <p>3. 仙台ミラソン</p> <p>学生・若手職員・民間企業の若手社員等、今まで地域づくりに関心がなかったような方を対象にチームを編成し、フィールドワークなどで、市が提供する様々な地域課題について企画・立案・実践する。特に「市内観光謎解きゲーム」を実施した際には、非常に好評で観光客誘致に効果があったため、任意団体として事業化。現在は地下鉄沿線の活性化などにも参画している。</p> <p style="text-align: center;">ミラソンとは・・・「未来志向のまちづくりをマラソンのように続けていく」という意味を込めた、「未来」と「マラソン」を掛け合わせた造語</p>
主な質疑	<p>(問) 地域力創造支援の事業数は年々増えているが、今後の事業数と予算の予定は。</p> <p>(答) 60館ある市民センターが、それぞれの地域で事業をやっても足りるぐらいの予算を確保している。今後、すべての地域で実施していくためにも、市民センターなどと話をしながら事業を進めていきたい。</p> <p>(問) マンションと平場の地域をつなげる工夫はあるか。</p> <p>(答) 地域力創造支援事業では、公園でイベントを実施する際に近くの学生アパートに声掛けをするなど参加を促す工夫をしている。また、被災の経験を踏まえ、避難所運営訓練の際には、地域の町内会等やマンションから必ず代表者を出してもらって顔を合わせる機会をつくっている。</p>
委員長所見・区政に活かせる点等	<p>当区では、協働の新たなステージである「協創」がスタートしたばかりである。どこの自治体でも取り組んでいるが、奥が深く、気が付かないことや参考にしなければいけない点が多々あるため、当区の事業にしっかりと取り入れていきたい。</p>